

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 7 年 3 月 31 日
学校法人聖公会聖ヨハネ学園
四恩幼稚園 園長 藤本昭子

1. 本園の教育目標

- ・キリスト教保育を行い「大切なものは目にみえない」を柱に、人格形成の基礎となる幼児期に神さまの愛を伝え、生涯にわたる生き方の基礎を培う。
- ・自由遊びを通して社会性や自立心を育てる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

年主題「ともに」は、神さまから守られている安心感を周りの友だちと共有し、園生活の中で、経験の幅を広げ楽しんで過ごすことを目標にする。また、平和について学ぶ中で、さまざまな環境の中で暮らす人を知り、ともに未来を切り開いていけるよう豊かな心を養う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	年齢に合わせたカリキュラムが組み立てられているか。	A	基本的な生活習慣の確立を大切に、一つひとつその子なりにできることを増やし学年が進む中で定着できるようカリキュラムを計画。子ども自身の『できた!』を大切に、自分自己肯定感を高めていくことができた。
2	環境を整え遊びやすい状況が設定されているか。	A	全体で遊べるホールを中心にどの学年も交われるような遊び道具を設定した。縦の関係が深まった。廃材を常に用意し、自分で製作できるように身近な場所に必要なものを用意した。出来上がった作品を見せ合い自分たちで遊びを深めていくことができた。
3	気になる子の支援計画の組み立てができていくか。	B	早期に療育に繋げることによって苦手なことを少しずつ減らしていくことができた。おむつをしている新入園児が多く、園と家庭が連携し、前向きに成長を促せるようにした。今後も気になる子の対応を職員間で共通理解の上、取り組んで行きたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	今年度は、子どもたちの生活している様子を保護者に見てもらう機会が多くあった。経験不足の子どもが多く、保育者の手が必要とする場面が多くあった。出来なくても一步一步努力することで自信をつけていった。年長児は、礼拝当番になり、全体の前で言葉を言えるようになり、そのことが小学校に向けての良い機会となった。さまざまな経験を積むことができるようになって活発に活動するようになった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	安全管理	園庭に車の乗り入れが出来ないようにポールを建てる。雨の日は傘があり周囲も見えくいため、安全対策として車と接触しないよう歩く道を分けた。津波の想定に備え近隣のより高いビルの屋上まで素早く逃げるための練習を繰り返した。
2	地域とのかわり	プレ保育や園庭解放を積極的に行い、保護者同士が相談しあえる場の提供をする。近隣の小学校との連携を強化できる環境を整えたい。
3	園内研修	互いに良いところを褒め合い向上できるような教師関係を築き、日頃、疑問に思っていることを話合って行きたい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

これからは、情報発信が大切になる。ホームページの活用は多数の人に園の魅力を知ってもらうために有効打と思う。小学校のように保護者への手紙はICTを活用しても良いと思う。小学校や中学校を卒業しても集まる子ども、保護者が多くいるのは、四恩幼稚園の良さで大切にしたい。